

# 牧草と園藝



# ヘイスーダンの乾草利用

千葉県印旛郡富里町

松本充晃牧場を訪ねて

## はじめに

松本さんが酪農業に従事したのは、24年前の昭和37年です。父操さんの経営を引継ぎ、牛群能力の向上、規模拡大に努め、現在に至っています。耕地面積は4.6 haですが、そのうち2.6 haが借地の利用となっています。

自給飼料生産にも真剣に取り組み、牧草類などでは、青刈り主体であった給与技術を、出来る限り乾草に調製したり、また昨年よりトウモロコシを作付体系の一部に盛り込み、地下サイロを利用して、ホールクロップサイレージの通年給与体系へと結びつけております。

## ヘイスーダンの導入

そんな松本さんが、夏型乾草として、ヘイスーダンの栽培を開始したのは2年前からで、ヘイスーダンを導入した理由は、以下のようでした。

①圃場（借地）が、やや湿地条件下にあり、ヒエなどの雑草との競合が予測されるが、ヘイスーダンは初期生育に優れており、雑草負けしない。

②とくに手間（除草剤散布等）をかけなくても順調に生育してくれる。

③細茎で予乾しやすく、とくに密植播きすれば、更に茎が細く、乾草調製が容易である（昨年の経験より）。

④繊維質が豊富に含まれており、育成牛には好都合である。

## ヘイスーダンの栽培現況（昨年の場合）

ヘイスーダンの圃場は、家から約3 km離れたところであり、45 a（借地）です。

耕起…ロータリ耕 播種期…6月上旬

播種法…機械播種（ブロードカスタ利用）（播種後、デスクハローで覆土し、カルチパッカで鎮圧）

施肥…炭カル 40 kg/10 a

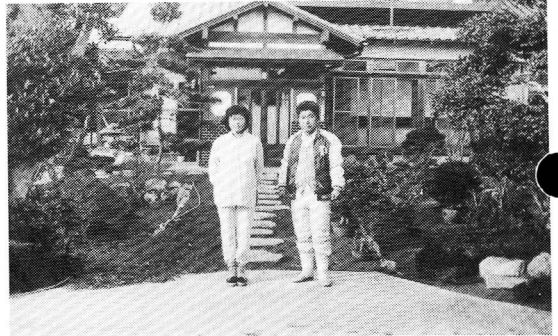


写真1 松本さんご夫妻



写真2 モーアコンディショナによる刈取風景  
（千葉研究農場）

過リン酸石灰 40 kg/10 a

（堆厩肥の投入無し）

刈取…I番刈（8月5日）II番刈（9月末日）

（デスクモーアで刈取り、1日おきにテッダレーキで反転した後、集草して、ヘイペーラで梱包）

## ヘイスーダン乾草の収量性

初年度の昭和59年は、10 a当り乾草原物で約800 kgの収量を得ましたが、昨年度は620 kgと大幅に減少しました。

この数字は、決して満足のいく収量ではありませんが、その原因は松本さんもわかっており、後述することになりますが、ひとつずつ解決していく構えです。